

【出題の意図】

今年度は、ビー・ウィルソン著、堤理華訳『人はこうして「食べる」を学ぶ』と『朝日新聞』に掲載された大野博人「(日曜に思う)「伝統」が発明される時代」の2つの課題文を出題した。共に「伝統」が国家権力などにより「創造」されたものであることを説明する課題文である。課題文2は、2018年に物議を醸した話題で、大相撲の土俵上で倒れた男性を救命するため土俵にあがった女性に「下りてください」と若手行司が促した対応がきっかけになり、盛んに論議されたものである。こうした「伝統」が「創造」されるものであることに着目できるか、否かを問いつつ、最新のニュースに関心をもって接しているかを評価しようとした。

【評価のポイント】

問一では課題文1の内容の正確な理解ができているかをみた。20世紀になるまで日本食はたいしたものではなかったが、明治期の肉食奨励の啓蒙運動などによって栄養価の高い食が目指され始めた。1920年代には政府によって栄養価の高い軍隊食が一般家庭にも広められた。そして第二次大戦後のアメリカ式の給食は折衷的な味覚を広め、経済の向上に伴い副食が増加するとともに外国料理が伝統料理に取り込まれていき、変化に富み、楽しく、健康的な「日本食」が生まれた。設問では「近現代において」と問うているのであるから、課題文の明治時代以降の動向についてまとめることが求められている。課題文では「明治時代」「1920年代」「戦後」における変化を述べているから、それを洩らさずまとめることが必要である。

問二では二つの課題文の内容を踏まえ、「伝統は作られる」という側面からの考察が求められた。特に課題文2を踏まえたならば、伝統とされるものがそれほど長い歴史を持つものではなく、国家権力などによって伝統として創造されたケースがあったことが理解されるであろう。そのような「伝統は創られるものだ」という観点から、例えば「我が家の伝統」「我がサークルの伝統」「我が校の伝統」「我が村の伝統」などの具体的な伝統の事例に目を向けて、それらの伝統は一体どういう風に生まれたのか、どういう意味で伝統といえるのか、といった議論が展開されるかに注目した。

【答案の傾向】

問一については、概ね要旨は理解しているが、3つの時代を明確に分類する解答は3割程度にとどまった。特に1920年代の変化を見落とす解答が目立ち、戦後のみについて言及するものが少なからずあった。また「1920年代」を誤って「戦時中」と記しているものがあった。近現代についての基本的な知識も求められるところである。

問二については、課題文2の内容が踏まえられていない解答が比較的多く、それらは「伝

統は守るべきか」「伝統は大事」といった議論に終始していた。「伝統が作られる」という側面を踏まえた考察が求められるところであったが、そのような解答はかなり少なかった。「伝統」が「創造」されることについて、それを身近な具体的な「伝統」の事例に目を向けて考察してほしいが、そのような解答はあまり見られず残念であった。本文を踏まえ、独自の議論に発展させたものはあまり多くなかったが、「性役割や行事などのなかに見せかけの伝統も存在する。受け継ぐべきは守り、変化させるべきは変化を」、「目の前の利益に誘惑されず、伝統が残る理由の理解が必要」など、評価に値する解答も見受けられた。

あげられた具体的な伝統の事例としては、敬語（礼儀作法）、祭り、歌舞伎、エイサー、女性差別、南部鉄器、遠野物語、留学した国の伝統、部活のなかの旧習、日本の平和主義など身近な「伝統」をあげる解答が目立つ一方で、課題文1の日本食を例にあげる解答も多数あった。課題文2の核心である伝統の恣意的な創造に言及した解答は少なかった。グローバル化にともない、自国の伝統を守りつつ現代的な視点から見れば悪習と見なされる伝統は見直されるべきであるとする解答が多かった。また課題文2から「伝統」とされてしまうことで、それに異議を呈することがはばかれるような状況が生じることが読み取れ、そうした状況をどう考えるかという視点もあり得たが、そのような解答も見受けられなかった。

原稿用紙の使い方や段落の分け方はおおむね問題はなかった。誤字脱字は減点対象であるが、全体的には少なかった。日頃から手書きで文章を書く機会を意識的に増やしてほしい。中学、高校で学ぶ日本史、世界史、公民、現代社会などの学習とともに、ニュースに関心を払って学んでほしい。